



「2016年東京オリンピック（幻）」



拝復 二週間のご無沙汰でした。先週は初めて栃木のゴルフクラブに地球を耕しに行ってきました^^;。抜けるような晴天の下でのラウンドは非常に気持ちがいい。スコアを除けば(T_T)。初めての「山岳コース」、よく刈り込まれた高速グリーン、通常の二倍は疲れました。もう二度と行かない（笑）。

と、ゴルフに関してはおおよそからっきしですが、天気はいい。一年の中で一番好きな季節がまさに旬を迎えています。スポーツ、グルメ、ドライブ、ワインなにをとっても一番気持ちがいい季節です。

時差-12時間、飛行機で26時間、応援するのも大変ですー



そんな中、2016年のオリンピック開催都市は「**リオデジャネイロ**」に決定しました。尊敬する建築家の安藤忠雄さんが東京のコーディネータをされているので応援はしていましたが、決選投票にも進むことが出来ませんでした。

ただそれほどの悔しさは感じませんでした。もちろん現場の人達のご苦勞は大変なものがあったでしょうし、その落胆ぶりは深夜のテレビの前でも気の毒ではありました。ただ、東京への思いを別にすれば、**リオデジャネイロの当選は当然と感じました**。オリンピックの5つの輪は、5つの大陸が一つになる「平和の象徴」であると小学校の頃に教わった記憶があります欧州、アジア、アフリカ、オセアニア、アメリカのうち二つの輪（大陸）がオリンピックを主催していません。**アフリカはオリンピックへの立候補こそ**

日本はベスト4を目指す、そうです（笑）貯金して行くかなあー



ありませんでしたが、**来年ワールドカップを南アフリカ共和国で開催します**。オリンピック憲章の理念から言っても初めての南米大陸での開催は順当なものに思えました。それにしても、石原某知事、悔し紛れに何事かつぶやいていたようですが、本当に品がない。負けは負け。敗者も潔くしましよよ（笑）。横綱審議委員会も朝青龍の品格よりも知事の品格を問うて欲しいものです^^;

で、今日のお題なのですが、あらためて今回の「東京オリンピック」とはなんだったのかを掘り下げてみようと思います。今更、「死んだ子供の年を数えても」なのですが、150億円も使って結果は落選。せめて敗因を探って今後の糧としましよ。資料は東京都および、オリンピック招致委員会の公式資料で、ネットであればすぐに見る事が出来るものばかりです。

- 資料は ①2016年東京オリンピック基本方針（2007）
- ②2016年東京オリンピック開催基本計画（2007）

③Tokyo Applicant city 申請ファイル (2009)

④2016TOKYO 東京都 (2008) の四つです。いずれも日本語でしたので、とっても楽^^。

リオデジャネイロに関して言えばポルトガル語のページを見つけましたが、当然ギブアップ(T_T)



ただ、とても綺麗です。



日本は真面目。

まず、なぜこのタイミングで東京にオリンピックを招致するのか？記憶によればその前の前の招致活動で大阪が破れていたはずですし、アジアでは **2008 年に北京でオリンピック** を開催したばかり。枠と言う意味では分が悪い。傾向を見るために第一回アテネオリンピック (1896 年) から北京オリンピック (2008 年) まで戦争で中止された大会を含め 31 回の主催国の内訳を見てみました (Wikipedia より)。(黄色が欧州、赤は米国、ピンク米国以外の米大陸、緑がアジア、豪州が青、黒は消滅)

	1	1896年	アテネオリンピック	ギリシャ	
	2	1900年	パリオリンピック	フランス	黄色
	3	1904年	セントルイスオリンピック	アメリカ合衆国	赤
特別		1906年	アテネオリンピック	ギリシャ	
	4	1908年	ロンドンオリンピック	イギリス	黄色
	5	1912年	ストックホルムオリンピック	スウェーデン	青
6(中止)		1916年	ベルリンオリンピック	ドイツ帝国	黄色
	7	1920年	アントワープオリンピック	ベルギー	黄色
	8	1924年	パリオリンピック	フランス	黄色
	9	1928年	アムステルダムオリンピック	オランダ	黄色
	10	1932年	ロサンゼルスオリンピック	アメリカ合衆国	赤
	11	1936年	ベルリンオリンピック	ドイツ	黄色
12(中止)		1940年	東京オリンピック → ヘルシンキオリンピック	大日本帝国 → フィンランド	黒
13(中止)		1944年	ロンドンオリンピック	イギリス	黄色
	14	1948年	ロンドンオリンピック	イギリス	黄色
	15	1952年	ヘルシンキオリンピック	フィンランド	黄色
	16	1956年	メルボルンオリンピック	オーストラリア	青
	17	1960年	ローマオリンピック	イタリア	緑
	18	1964年	東京オリンピック	日本	緑
	19	1968年	メキシコシティオリンピック	メキシコ	ピンク
	20	1972年	ミュンヘンオリンピック	西ドイツ	黄色
	21	1976年	モントリオールオリンピック	カナダ	ピンク
	22	1980年	モスクワオリンピック	ソビエト連邦	黒
	23	1984年	ロサンゼルスオリンピック	アメリカ合衆国	赤
	24	1988年	ソウルオリンピック	韓国	緑
	25	1992年	バルセロナオリンピック	スペイン	黄色
	26	1996年	アトランタオリンピック	アメリカ合衆国	赤
	27	2000年	シドニーオリンピック	オーストラリア	青
	28	2004年	アテネオリンピック	ギリシャ	黄色
	29	2008年	北京オリンピック	中国	緑
	30	2012年	ロンドンオリンピック	イギリス	黄色
	31	2016年	リオデジャネイロ	ブラジル	ピンク

東京オリンピックを境に大陸間移動が原則に

はい、なんとびっくり！オリンピックは 1960 年のローマ大会までは欧米でしか開催されなかったのです。1964 年によく「東京」。この招致こそが奇跡に思えて来ました（本当にビックリ！）。アメリカは単独で 4 度開催しています。威張っていますね（笑）。東京オリンピック以降は、色がまだらになり、同じ大陸で二度続けて開催国となることはありません。大陸間移動が原則なら 4~5 大会に一度がアジア枠。

この資料を元に、競馬の予想屋ではありませんが、

本命 リオデジャネイロ（南米初）

対抗 シカゴ（米国が 1996 年アトランタ以降 20 年も開催していない^^;）シカゴは初

穴馬 なし

着外 東京（北京でやったばかりでしょ）（笑）。しかも東京は二度目

着外 マドリード（経済情勢から言って無理でしょ）^^; それに、二大会連続の欧州はない。

今回アジア枠（緑）はなかった。シカゴの意外な惨敗は謎です。

東京のプレゼンテーションは派手なパフォーマンスが続いて、日本国内では期待を抱かせる展開になっていた。が、それでも敗れた。招致委員会が作製した招致用の資料を見ました。数時間読み込みました。

① 世界一コンパクトな大会を実現します

- ・ 10 キロメートル圏にほとんどの競技施設を作ります
- ・ 各種競技場と選手村を 20 分以内に結びます
- ・ 東京の駅数、路線密度は他の追随を許さない

② 先端技術を駆使した大会を実現します。

- ・ 日本の誇る技術を披露します
- ・ 安全対策、テロ対策万全です

③ 環境を最優先した大会を実現します

- ・ 世界一の取り組みを実現しています
- ・ マイナス・カーボンオリンピックを実現します
- ・ リサイクル、燃料電池自動車

④ もてなしの精神に溢れた日本文化を堪能する大会を実現します

- ・ 日本人ならではのホスピタリティ
- ・ 美しい日本の風景

⑤ オリンピックを通じて次世代の青少年の育成を継承します

- ・ 大会後のオリンピック施設はアジアのスポーツの拠点とします
- ・ ODA のあり方を変え、スポーツを中心とした ODA を展開します
- ・ フェアプレー、アンチドーピング

ここ爆笑しました（笑）。だって主要地域へのアクセスは羽田空港を想定しています。あまりにタイムリーな資料に大笑い。やっぱり国際ハブ空港は「羽田」なのです。私は千葉県民ですので、それで結構です^^;

思わず、「えっ！」。この程度の企画だったの？これでは危うい。私は昨年末に六本木ヒルズライブラリーで「安藤忠雄」の講演を聞き、その深みのある計画に驚いた。[NewsLetter37 号参照](#)。その崇高な

目標はどこに言ってしまったのか。オリンピックと言う場を通じて世界中の都市に対して、21世紀型の都市とは「かくあるべし」と言う姿を発信したい。彼の思いは少なくとも今回東京都が用意した資料の中に感じることは出来ない。どうしてもやりたいと言う思いが伝わらない資料です。

さらに、アジアで「初の二度目」の開催に至るのかと言う説明に関しては、

- ・ 1964年の東京オリンピックは歴史がくれた宝物として現在の東京でも息づいている
- ・ 今回は2016年の開催を通じて新しい都市像を世界に発信したい

つまり、1964年の初めての開催を通じてここまで発展した東京から世界に向けて新しい都市像をプレゼント（恩返し）したい、としか読めない。それなら、今までに一度も開いていない都市を優先したらよいではないか、と即座に反論を受けてしまう。つまり再度開く必然性や熱意が感じられない。そんなことは別にオリンピックを通じてではなくても普段の活動として行えばよい、と感じます。

そう言う意味でも今回のリオデジャネイロの当選はオリンピックの一つの機能に合致している。新興国の国際デビューである。東京、メキシコシティ、ソウル、北京でその機能は決定的になった。現在のブラジルはまさにそのステージにある。オリンピックは成長する国家や都市の着火点となる。資源大国であるブラジルはオリンピックをきっかけとして国内の様々なインフラを整備し、世界中から投資資金を引き出せばよい。東京の招致委員会はそれを上回る「何か」が必要だった。

もう一つ、外交力です。リオとマドリードはどちらかが途中で敗れた際には先に落選した方が相手を応援するという密約を結んでいました。シカゴの落選は未だに謎です。オバマ大統領を引っ張り出して惨敗。米国離れ、基軸通貨であるドル離れが根底にあるように思います。日本はいつも素晴らしい活動はするが、ロビイスト活動がどうしてもなく下手くそだそうです(T_T)。せめてシカゴと密約をすべきだった。

さらに開催地でのアンケートの結果が追い討ちをかけたと思います。調査結果でも開催に賛成（ぜひ）東京 56% (25%)、シカゴ 67% (39%)、マドリード 85% (58%)、リオ 85% (42%) 民意もなかった。今更、オリンピック？そんなことよりも今の経済を何とかしなくちゃ。そんな声が聞こえてくるような気がします。国全体で「何としてもやりたい」と言う熱意がなかった。大統領とペレ（サッカーの神様）を広告塔としたブラジルに敵うはずがなかった。

東京の敗北は必然でした。次の緑色（アジア枠）のチャンスは2024年か2028年。ライバルは上海かホーチミンシティ、ひょっとしたらピョンヤン？でしょうか。広島（長崎）にはチャンスがある。「核兵器廃絶」という大義名分があるからです。2020はひょっとすると・・・

株式会社アール・リサーチ 〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3 F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

<http://r-research.co.jp/> ブログ、ほぼ、毎日更新しています→<http://rresearch.blog103.fc2.com/>

で、今更どうでもいいのですが、安藤忠雄さんの監修された資料写真をご覧ください。



我々はもしかしたらとんでもないチャンスを逃したのかもしれない(T_T)。